Volunteering and Wellbeing Among Ageing Adults: A Longitudinal Analysis

Allison R. Russell　 Ama Nyame-Mensah　Arjen de Wit　Femida Handy

Voluntas (2019) 30:115–128

過去の研究ではボランティア活動が精神的および身体的健康の改善に肯定的な関係があることを示してきた。ボランティアは、個人の異なる分野に関わることに役立つ可能性があることも示唆されている。ボランティアをすることにより、コミュニティにより深く関わることができ、それによって新しい社会的つながりを構築し、社会的支援のネットワークを生み出す。アメリカの調査「Midlife」のパネルデータを使用して、中年から高齢までの成人の心理社会的幸福の相関に対する自尊心の低さをボランティアが緩和できるかどうかを調べた。

傾向スコアマッチングを使用して、それぞれのデータがボランティア参加者と非ボランティア参加者のサブサンプルを選別した。PSMモデルに含まれる変数は、、ボランティアの参加と幸福の既知の相関関係がある人種、性別、配偶者の有無、高校卒業の有無、就労状況、年齢、回答者の宗教的所属（プロテスタント、カトリック、その他の宗派）を選別した。 PSMアルゴリズムは、ボランティア活動に関与したことを示した。457人の参加者すべての一致（100％）を見つけ、自尊心と人生の満足度を予測について、マッチングアルゴリズムは、ボランティアに参加したことを示す256人の参加者のうち245人に一致（96％）した。

結果は、ボランティアへの参加が、大人の帰属意識と人生の満足度に対する自尊心の低さを軽減することを示した。さらに、ボランティアが自尊心と幸福の両方の測定値に関係に対する肯定的な証拠を見つた。その効果は帰属意識よりも人生の満足度に対してより強かった。一方、ボランティアとそれらの利益を受け取るコミュニティの両方に対する利益の融合を考慮する必要があります。これらの結論は、高齢者のボランティア活動が、公衆衛生に影響を与える可能性があることを示唆している。